

実践地域医療論

責任者・コーディネーター	地域医療薬学講座 高橋 寛 教授		
担当講座・学科(分野)	地域医療薬学講座、臨床薬剤学講座、医学部外科学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 19.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

住み慣れた地域で医療が受けられることは国民にとって重要なことであり、医療と介護の新しい提供システムである地域包括ケアシステムが構築されている。このシステムの中では、病院におけるチーム医療と同様に地域内で医療や介護の専門職が連携ととして行かなければならない。在宅医療はそのための方法の一つであり、薬剤師は医療チームの一員として在宅医療に積極的に関与しなければならない。在宅医療において、医師をはじめ多職種がどのような役割を果たしているかを学び、薬剤師が在宅医療で果たす役割と実践に必要な基本的な知識を修得する。

・教育成果（アウトカム）

地域包括ケアシステムにおいて薬局・薬剤師に求められる役割を理解し、国が進める政策や地域での医療提供体制を学び、在宅医療に必要な知識を修得する。また、災害医療における薬剤師の役割を学ぶ。地域医療での多職種の役割を理解し、薬剤師に求められている役割を学ぶことで、地域医療に貢献できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー:1,5,6)

・到達目標（SBO）

1. 在宅医療における薬局の役割と在宅患者訪問薬剤管理指導業務について概説できる。
2. 在宅医療に関わる多職種の役割を説明できる。（☆）
3. がん患者の緩和ケアと薬剤師の役割について説明できる。（☆）
4. 在宅医療における服薬支援について具体的な事例をあげて説明できる。（☆）
5. 災害医療における薬剤師の役割について説明できる。（☆）
6. 医療コミュニケーションスキルについて説明できる。
7. 医療制度について説明できる。
8. 薬剤経済学の必要性和手法を説明できる。

・講義日程

(矢) 西 2-A 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/12	水	3	地域医療薬学講座	高橋 寛 教授	地域医療オリエンテーション 1. 在宅医療において薬剤師がチームに参画し適切に支援できるように、在宅患者のケアと薬剤師の果たす意義と役割について説明できる。 2. 地域医療における薬剤師の役割を概説できる。

4/18	火	2	地域医療薬学講座	木村 幸博 非常勤講師	在宅医療の実際（医師） 1. 在宅医療チームの意義と在宅医療に関わる医師の役割について説明できる。
4/25	火	2	地域医療薬学講座	長井 貴之 非常勤講師	在宅医療の実際（薬剤師） 1. 在宅医療における薬剤師の役割と在宅医療チームへの関わり、在宅患者訪問薬剤管理指導業務の実際について説明できる。
5/9	火	2	高度看護研究センター	長澤 昌子 氏	在宅医療の実際（看護師） 1. 在宅医療における看護師の役割と在宅医療チームへの関わり、訪問看護の実際について説明できる。
5/16	火	2	地域医療薬学講座	小原 道子 非常勤講師	在宅医療における薬剤師の役割 1. 在宅医療における服薬支援の重要性を実例をもとに説明できる。
5/16	火	3	地域医療薬学講座	小原 道子 非常勤講師	認知症サポーター研修 1. 認知症患者の病態を理解し、必要な支援について説明できる。
5/23	火	2	地域医療薬学講座	伊藤 美穂子 非常勤講師	在宅医療の実際（栄養士） 1. 在宅医療における訪問栄養士の役割と在宅医療チームへの関わり、在宅訪問栄養食事指導の実際について説明できる。
5/30	火	2	医学部緩和医療学科	木村 祐輔 特任教授	がんの緩和ケア 1. がん患者への緩和ケアとがん緩和ケアチームにおける薬剤師の役割について説明できる。
6/6	火	2	地域医療薬学講座	湊谷 寿邦 非常勤講師	災害医療と薬剤師 1. 東日本大震災での経験を基に災害医療における薬剤師の役割について説明できる。
6/13	火	2	地域医療薬学講座	松浦 誠 准教授	患者・来局者対応 1. 医療に必要なコミュニケーションスキルについて説明できる。
6/16	金	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済学1-日本の医療と医薬品をめぐる環境変化 1. 日本の医療体制とその背景、制度・政策等について説明できる。

6/20	火	2	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済学2-ジェネリック医薬品の評価と課題、クリニカルパス 1. ジェネリック医薬品の評価と課題、クリニカルパスについて説明できる。
6/21	水	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済学3-薬剤経済学の手法と応用 1. 薬剤経済学の手法と応用について説明できる。

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	ファーマシューティカル コミュニケーション： Pharmaceutical Communication	日本ファーマシューティカル コミュニケーション学会	南山堂	2007
推	コミュニケーションスキルト レーニング 患者満足度の向 上と効果的な診療のために	松村 真司、箕輪 良行 編 集	医学書院	2008

・成績評価方法

外部講師の授業時は、レポートの提出を行う（合計7回）。レポート(35%)と定期試験(65%)から総合的に評価を行う。

・特記事項・その他

授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題をまとめること。
講義終了後に質疑の時間を設け、そこでフィードバックを行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（Apple MacBookPro）	1	スライド投影のため
講義	パソコン（パナソニック CF-NX3）	1	スライド投影のため

セルフメディケーション特論

責任者・コーディネーター	地域医療薬学講座 高橋 寛 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床医化学講座、分子細胞薬理学講座、臨床薬剤学講座、衛生化学講座、地域医療薬学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 15 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

地域の中でかかりつけ薬剤師・薬局が重要視され、健康寿命を延ばすために薬局・薬剤師の活用が推進されている。そのため、薬剤師が、「地域住民による主体的な健康の維持・増進を積極的に支援する」ことに関わることが強く求められている。かかりつけ薬剤師・薬局として、地域住民からの要指導医薬品等の使用に関する相談及び健康の維持・増進に関する相談に適切に対応し、必要に応じて医療機関へ受診勧奨が行える実践的能力を学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

来局者が訴える症状に応じて、適切な対応と医療機関への受診勧奨の必要性を説明でき、必要に応じて要指導医薬品等での対応ができる。または健康食品等に関する相談を受けた際に、その特性を踏まえた上で専門的知識に基づきわかりやすく説明ができる。地域医療の質が向上し、薬剤師として地域医療へ貢献する。
(ディプロマ・ポリシー：1,4,6)

・到達目標（SBO）

1. 症状の把握と重症度に応じた適切な対応（トリアージ）の手順について説明できる。（☆）
2. 薬局の来局者が呈する症状とその背景にある疾患の関係を説明できる。（☆）
3. 薬局におけるセルフメディケーション支援に関する薬剤師の役割を説明できる。（☆）
4. 代表的な一般用医薬品の使用目的や特徴を列挙できる。
5. 代表的なサプリメントや漢方薬の使用目的や特徴を列挙できる。
6. 一般用医薬品の添付文書を活用して購入者にわかりやすく説明ができる。
7. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。（☆）
8. 来局者の訴えから、一般用医薬品等の選択も含め、適切な対応ができる。（☆）

・講義日程

(矢) 西 2-A 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/11	火	2	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	全身状態の評価とトリアージの実際 頭痛、発熱 1. 症状の把握と重症度に応じた適切な対応（トリアージ）の手順について説明できる。 2. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。 3. 薬局の来局者が呈する症状とその背景にある疾患の関係を説明できる。

4/19	水	3	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	<p>咽頭痛、咳・痰、腹痛、腰痛</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状の把握と重症度に応じた適切な対応（トリアージ）の手順について説明できる。 2. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。 3. 薬局の来局者が呈する症状とその背景にある疾患の関係を説明できる。
4/26	水	3	分子細胞薬理学講座	弘瀬 雅教 教授	<p>下痢、便秘、倦怠感・疲労感</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 症状の把握と重症度に応じた適切な対応（トリアージ）の手順について説明できる。 2. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。 3. 薬局の来局者が呈する症状とその背景にある疾患の関係を説明できる。
5/11	木	4	地域医療薬学講座	武政 文彦 非常勤講師	<p>一般用医薬品 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬局におけるセルフメディケーション支援に関する薬剤師の役割を説明できる。（☆） 2. 代表的な一般用医薬品の使用目的や特徴を列挙できる。 3. 一般用医薬品の添付文書を活用して購入者にわかりやすく説明ができる。 4. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。（☆）
5/18	木	4	地域医療薬学講座	武政 文彦 非常勤講師	<p>一般用医薬品 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬局におけるセルフメディケーション支援に関する薬剤師の役割を説明できる。（☆） 2. 代表的な一般用医薬品の使用目的や特徴を列挙できる。 3. 一般用医薬品の添付文書を活用して購入者にわかりやすく説明ができる。 4. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。（☆）
5/25	木	4	地域医療薬学講座	武政 文彦 非常勤講師	<p>サプリメント、漢方など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的なサプリメントや漢方薬の使用目的や特徴を列挙できる。
5/31	水	3	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	<p>健康食品の有効性と安全性</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な健康食品やサプリメントの使用目的や特徴を列挙できる。

6/7	水	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	添付文書の読み方 1 1. 医療用医薬品と一般用医薬品の添付文書の違いが説明できる。 2. 添付文書に記載されている項目について説明できる。
6/14	水	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	添付文書の読み方 2 1. 添付文書に使用されている用語の違いを説明できる。 2. 添付文書に記載している内容から、医薬品の特徴（薬物動態など）を説明できる。
6/20	火	1	地域医療薬学講座	高橋 寛 教授	総まとめ 1. 来局者の訴えから、一般用医薬品等の選択も含め、適切な対応ができる。（☆） 2. 来局者に医療機関の受診の必要性を的確に説明できる。（☆）

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
推	薬剤師のトリアージ実践ガイド	佐仲 雅樹	丸善出版	2012
教	病態知識を基礎とした一般用医薬品販売ハンドブックーセルフメディケーション・トリアージ	望月 眞弓、武政 文彦 監修	じほう	2011
推	知っておきたい一般用医薬品 第2版	日本薬学会 編	東京化学同人	2008
参	アルゴリズムを考える 薬剤師の臨床判断	木内 祐二 編	南山堂	2015

・成績評価方法

外部講師の際には、レポートの提出を行う（合計3回）。レポート(20%)と定期試験(80%)から総合的に評価を行う。

・特記事項・その他

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題をまとめること。
授業の最後に質疑の時間を設け、学生からの質問に対応する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-W9JWECDS）	1	スライド投影
講義	iPad（Apple MC906J/A）	1	講義資料の閲覧

実践副作用学特論

責任者・コーディネーター	臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学講座、衛生化学講座、生体防御学講座、薬物代謝動態学講座、神経科学講座、薬剤治療学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 13.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬剤師には医薬品使用における有効性と安全性を確保することが求められている。臨床で遭遇する副作用は治療用量域で発生する有害で意図しない反応で、症状は全身に及び、悪心からアナフィラキシーショックなど生命の危機に結びつくようなものまで多様である。副作用の多くは、用量関連性のものと非用量関連性のものに分けられ、用量関連性の副作用は予測可能であるが非用量関連性の副作用は予測が困難でありかつ比較的まれである。実践副作用学特論では、医薬品の使用により発生する実際の副作用疾患を学習することにより、副作用の早期発見及び早期対応を可能とし、重篤化を予防し医薬品使用の安全性向上に資することを目的とする。

・教育成果（アウトカム）

代表的な重篤副作用疾患の早期発見（初期症状）と早期対応のポイント、原因となる医薬品、副作用の概要（症状、検査所見）、対処方法、典型的症例等について理解することで、医薬品の使用による重篤な副作用を回避することができる実践的能力の基礎を身に付けられる。

（ディプロマ・ポリシー：1,4,6,8）

・到達目標（SBO）

1. 重篤副作用疾患別マニュアルを説明できる。（☆）
2. 副作用モニタリングと育薬について概説できる。（☆）
3. 口腔及び感覚器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
4. 消化器及び肝臓における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
5. 皮膚、過敏症及び癌における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
6. 精神及び神経・筋骨格系における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
7. 腎臓及び泌尿器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
8. 血液における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
9. 呼吸器及び心臓・循環器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
10. 代謝・内分泌、骨及び卵巣における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。（☆）
11. 臨床検査値から医薬品に関連する代表的な副作用を推定できる。（☆）

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/14	金	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	1. 重篤副作用疾患別マニュアルを説明できる。(☆) 2. 副作用モニタリングと育薬について概説できる。(☆) 3. 口腔及び感覚器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。(☆)
4/21	金	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	1. 消化器及び肝臓における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。(☆)
4/27	木	1	臨床薬剤学講座	富田 隆 准教授	1. 医薬品の副作用として発症する皮膚疾患、過敏症について理解し、説明できる。 2. かん化学療法施行時における代表的な重篤副作用疾患を理解し、説明できる。(☆)
4/28	金	1	神経科学講座	駒野 宏人 教授	1. 精神及び神経・筋骨格系における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。(☆)
5/12	金	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	1. 腎臓及び泌尿器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。(☆)
5/19	金	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	1. 血液における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。(☆)
5/26	金	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	1. 呼吸器及び心臓・循環器における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。(☆)
6/2	金	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	1. 代謝・内分泌、骨及び卵巣における代表的な重篤副作用疾患を説明できる。(☆)
6/9	金	1	薬剤治療学講座	伊藤 要一 非常勤講師	1. 臨床検査値から医薬品に関連する代表的な副作用を推定できる。(☆)

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	重篤副作用疾患別対応マニュアル	厚生労働省	医薬品医療機器総合機構ホームページよりPDFでダウンロード可	
参	病気がみえる vol.7 脳・神経	医療情報科学研究所編集	メディックメディア	2011
参	薬剤師のための医薬品副作用入門	増原 慶壮、大澤 友二	じほう	2011

・成績評価方法

定期試験（100%）により評価する。

・特記事項・その他

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
 復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題を確認し、まとめること。
 授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（パナソニック CF-W9JWECDS）	1	スライド投影のため

総合講義

責任者・コーディネーター	薬剤治療学講座 三部 篤 教授 衛生化学講座 杉山 晶規 准教授		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学講座、生体防御学講座、衛生化学講座、神経科学講座、分子細胞薬理学講座、創剤学講座、臨床医化学講座、薬物代謝動態学講座、機能生化学講座、薬剤治療学講座、臨床薬剤学講座、有機合成化学講座、地域医療薬学講座、天然物化学講座、薬学教育学科、分子生物薬学講座、情報薬科学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 43.5 時間
期間	通期		
単位数	3 単位		

・学習方針（講義概要等）

総合講義は、6年間の薬学教育の集大成を目指して、薬剤師法に規定される「薬剤師として必要な知識及び技能」の再確認を行う。総合講義では、1) 基礎薬学分野（物質の構造と性質、天然医薬資源、生化学、細胞生物学、微生物学及び生体防御学）、2) 医療薬学分野（薬理学、病態・薬物治療学、薬物動態学、創剤学）、3) 衛生薬学分野（健康と環境）、4) 法規・実務分野（実践的な薬剤師業務に関する事）に関して各担当講座が分担して講義を行い、薬剤師及び薬学関連分野での専門職において必要とされる知識を復習する。授業内容は各講座間で効率よく配慮し、最終学年の限られた時間を有効に活用して薬学教育の総まとめとする。

・教育成果（アウトカム）

6年間で行なわれた講義で学習した基礎薬学分野（物質の構造と性質、天然医薬資源、生化学、細胞生物学、微生物学及び生体防御学）、医療薬学分野（薬理学、病態・薬物治療学、薬物動態学、創剤学）、衛生薬学分野（健康と環境）、法規・実務分野（実践的な薬剤師業務に関する事）に関する重要事項を復習し、演習を活用しながら知識の整理統合ができる。また、各分野における最新の話題を説明できるようになる。
(ディプロマ・ポリシー：1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBO）

基礎薬学分野

物理、化学、生物系の薬学専門関連科目の SBOs

医療薬学分野

薬理学、病態・薬物治療学、創剤学、薬物動態学系の薬学専門科目の SBOs

衛生薬学分野

衛生系の薬学専門科目の SBOs

法規・実務分野

法規・実務系薬学専門科目の SBOs

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
4/13	木	2	機能生化学講座	中西 真弓 教授	生化学 1. 主な生体分子の構造、化学的性質、役割を説明できる。 2. 酵素の性質、役割、速度論、調節機構を説明できる。 3. 生体エネルギー代謝と調節機構を説明できる。
4/18	火	1	情報薬科学講座	奥 裕介 助教	微生物・感染症 1. 感染症を引き起こす病原体(細菌、ウイルス、真菌、原虫、寄生虫、プリオン)の性質を説明できる。 2. 滅菌法、消毒法を説明できる。
4/19	水	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生体防御 1. 免疫系を支えるしくみについて、細胞や分子のレベルで体系的に説明できる。 2. 免疫応答の制御と破綻について、体系的に説明できる。 3. 免疫応答の応用について具体例を用いて説明できる。
4/26	水	1	分子細胞薬理学講座	弘瀬 雅教 教授	薬理(循環器、呼吸器、消化器、代謝、他) 1. 循環器、呼吸器、消化器、代謝系疾患治療薬の薬理作用について説明できる。
4/27	木	2	薬学教育学科	奈良場 博昭 教授	薬理(内分泌、生殖器、血液、腎臓、アレルギー、炎症) 1. 内分泌、生殖器、血液、腎臓、アレルギー、炎症系疾患治療薬の薬理作用について説明できる。
5/8	月	1	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	病態治療(循環器系疾患、感覚器疾患、他) 1. 「医療薬学」等で学習してきた疾患について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。
5/9	火	1	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	病態治療(消化器系疾患、呼吸器系疾患、他) 1. 消化器系および呼吸器系の疾患およびその治療法について説明できる。

5/15	月	1	分子生物薬学講座	藤本 康之 准教授	分析化学 1. 分析化学の基礎、定性・定量分析、機器分析、分析化学の臨床応用について説明できる。
5/18	木	1	構造生物薬学講座	野中 孝昌 教授	物理化学 (C1 物質の物理的性質 (1)物質の構造、(2)物質の状態Ⅰ、 (3)物質の状態Ⅱ、(4)物質の変化) 1. 物質を構成する基本単位である原子および分子の性質を理解できる。 2. 原子構造、分子構造および化学結合について説明できる。 3. 物質の状態および相互変換過程を解析できるようになるための、熱力学の基本を理解できる。 4. 複雑な系における物質の状態および相互変換過程を熱力学に基づき解析できるようになるための、溶液および電気化学の基本を理解できる。 5. 物質の変換過程を理解するための、化学反応速度論、および反応速度に影響を与える諸因子の基本を理解できる。
5/22	月	1	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	薬物動態学 1. 薬の生体内運命について理解するために、薬物の吸収、分布、代謝、排泄の過程と薬物の体内動態との関連について概説できる。 2. 薬物相互作用を様式別に列挙し、その回避方法について説明できる。 医薬情報科学 1. 医薬品の適正使用に必要な医薬品情報を理解し、正しく取り扱うことができるようになるために、医薬品情報の情報源、情報の種類、情報の収集法、関連する職種、医薬品開発過程で、および、市販後に得られる情報、関連する法律について概説できる。 2. 個々の患者に応じた投与計画を立案できるようになるために、薬物動態の個人差要因である、遺伝的素因、年齢的要因、生理的要因、合併症について理解し、説明できる。

5/23	火	1	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	創剤学 1. 薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を説明できる。 2. 製剤の種類、製造、品質などについて述べるができる。 3. 薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS について説明できる。
5/29	月	1	有機合成化学講座	河野 富一 教授	有機薬化学 1. 医薬品の大部分を占める有機化合物について、命名、構造、性質を理解したうえで、有機化合物のもつ各官能基の合成及び反応を説明できる。
5/31	水	2	天然物化学講座	林 宏明 准教授	生薬・漢方 1. 医療現場で使用される生薬、漢方薬の用途や副作用について説明できる。
6/1	木	1	天然物化学講座	藤井 勲 教授	天然物化学 1. 重要な天然有機化合物の構造、生理活性、生合成を説明できる。
6/5	月	1	薬衛生化学講座	名取 泰博 教授	保健衛生、環境衛生 1. 保健統計、疫学及び疾病の予防について説明できる。 2. 地球レベルから室内レベルまでの環境と健康との関係について説明できる。
6/8	木	2	薬衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食品衛生、毒性 1. 食品成分の栄養的な価値や食品機能、食生活の現状および、食中毒や食品汚染など食品衛生について説明できる。 2. 化学物質の生体への有害作用やその発生機序、解毒法について説明できる。 3. 食品衛生や化学物質の管理に関連する法規制や試験法について説明できる。
6/12	月	1	地域医療薬学講座	松浦 誠 准教授	薬剤師業務 1. 薬局に患者が処方箋をもって来局した際の薬剤師業務について説明できる。 2. 薬局に生活者が一般用医薬品を求めて来局した際の薬剤師業務について説明できる。

6/15	木	1	地域医療薬学講座	高橋 寛 教授	<p>薬局業務</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保険薬剤師が業務として遂行する薬局業務全般について理解し、説明できる。 2. 地域における保険薬剤師が担う業務全般を理解し、説明できる。
6/16	金	1	臨床薬剤学講座	千葉 健史 助教	<p>病院業務</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院薬剤師が業務として遂行する薬剤部業務全般について理解し、説明できる。 2. チーム医療における病院薬剤師が担う業務全般を理解し、説明できる。
6/21	水	1	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	<p>法規・制度とヒューマニズム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師と医薬品等に係る重要な法規を説明できる。 2. 重要な社会保障制度と医療経済について説明できる。 3. 生命倫理に関わる基本的な概念を説明できる。
9/25	月	2	情報薬科学講座	西谷 直之 准教授	<p>病態（感染症、悪性腫瘍）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗感染症薬の薬理について説明できる。 2. 感染症の薬物治療について説明できる。 3. 抗悪性腫瘍薬の薬理について説明できる。 4. 悪性腫瘍の薬物治療について説明できる。
9/26	火	2	臨床医化学講座	大橋 一晶 准教授	<p>病態治療（内分泌系疾患、代謝性疾患、他）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医療薬学」等で学習してきた疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
9/28	木	1	臨床薬剤学講座	平船 寛彦 助教	<p>病院業務</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院薬剤師の業務全般について、その目的と意義を理解し、説明できる。
10/2	月	1	生体防御学講座	白石 博久 准教授	<p>生体防御</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「生体防御学」や「医薬モデル生物学」で学んだ免疫系の意義と仕組みを細胞や分子のレベルで体系的に捉えることができる。 2. 免疫系の制御を介した疾患の治療法について、最新のトピックスを交えて説明できる。

10/5	木	1	臨床薬剤学講座	富田 隆 准教授	<p>法規・制度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤師と医薬品等に係る重要な法規を説明できる。 2. 重要な社会保障制度と医療経済について説明できる。
10/12	木	1	神経科学講座	駒野 宏人 教授	<p>薬理（中枢神経系、自律神経系、知覚・運動神経系）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な精神疾患、中枢疾患を挙げ、その病態生理、適切な治療薬とその薬理作用・機序を説明できる。 2. 自律神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用・機序を説明できる。 3. 知覚・運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用・機序を説明できる。
10/13	金	1	有機合成化学講座	田村 理 准教授	<p>有機化学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化合物の命名法および構造に基づいた性質を理解したうえで、各官能基の合成法及び反応を説明できる。 2. 反応を組み合わせて医薬品などの有機化合物を段階的に合成する方法を説明できる。
10/17	火	1	薬学教育学科	奈良場 博昭 教授	<p>機能形態学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置を説明できる。 2. 人体の機能に関わる臓器の生理的役割を説明できる。
10/20	金	1	薬物代謝動態学講座	幅野 渉 准教授	<p>薬物動態の解析</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体内薬物動態の代表的な解析手法を概説できる。 2. 各薬物動態パラメーターの定義および活用法を説明し、これらを用いた計算ができる。 3. 体内薬物動態の変動を考慮した、適切な投与計画を立案できる。 4. TDM を実施する意義、および注意点を薬物の例を挙げて説明できる。

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード薬学シリーズ2 「物理系薬学I 物質の物理的性質」第2版	日本薬学会 編	東京化学同人	2011
教	平成 29 年度総合試験問題集	岩手医科大学薬学部 総合試験部会 編		2017

・成績評価方法

総合試験を複数回行い、その総合点で評価する。(試験 100%)

・特記事項・その他

予定されている授業内容を予め確認し、予習しておくこと。
復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題・教科書・参考書で知識を整理しまとめておくこと。
その他、講義担当の先生から指示があった場合には、その指示に従って予習・復習をすること。
適宜、確認試験を行う。フィードバックとして、正解や個人カルテを配布するので、各自の到達度を把握し、以降の学習に生かすこと。
授業に対する事前学修(予習・復習)の時間は最低 30 分を要する。
野中担当分の講義は、TBL 形式で実施する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン(アップル、MA896J/A Education)	1	スライドの投影のため
講義	iPad(Apple MC906J/A)	1	講義資料の閲覧